

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 118 号	氏名	植村 隆
学位審査委員	主 査 近藤 宇史 副 査 田口 尚 副 査 永山 雄二		
論文審査の結果の要旨 1. 研究目的の評価 本研究は、消化管悪性腫瘍の治療で用いられる放射線療法上問題となる腸管粘膜の炎症反応について、炎症性サイトカイン IL-11 による保護効果の機構を解明しようとしたもので、目的は十分に妥当である。 2 研究手法に関する評価 ラット正常回腸上皮細胞 (IEC-18) を用いて、ヒト組み換え IL-11 (RhIL-11) で処理した後に X 線照射を行い、細胞の生存やアポトーシスを測定すると共に IL-11 によるシグナルを解析したもので、研究手法も妥当である。 3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、RhIL-11 処理によって X 線照射による IEC-18 細胞の生存率の増加が認められた。RhIL-11 は特に PI3K の活性化とその下流の S6Rp 活性化を示し、このシグナル系が細胞保護作用に関与していることが推測された。特に RhIL-11 放射線照射によるカスパーゼ 3 の活性化を抑制することを明らかにした。 これらの結果より、放射線療法時に RhIL-11 の前処置によって腸上皮細胞の炎症反応を軽減させる可能性が示された。これらの解析結果は放射線治療の副作用軽減に働くと考えられるサイトカインの新しい機序を示したもので、臨床腫瘍学研究への進展が大いに期待される。 以上のように本論文は消化器腫瘍学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。			